

	地方・産地	品名	来歴など
1	北海道	及部	主に松前郡松前町上川(旧及部・およべ)地区で栽培。樺太を経由して渡来したシベリア系の胡瓜という。明治より栽培という説も。
2	青森	糠塚	八戸市糠塚で昔から栽培されているきゅうり。ルーツは定かではないが、藩政時代に八戸藩の武士が広めたという。
3	山形・最上	勤次郎	明治時代、真室川町の姉崎勤次郎家に隣村の鮭川村から嫁いだ女性が持参してきたので「勤次郎きゅうり」と呼ばれる。黄色い果皮色が特徴。
4	山形・庄内	外内島	鶴岡市外内島(とのじま)地区特産。弘法大師が出羽三山に向かう途中、このきゅうりでのどの渇きを癒やしたと伝えられている。
5	山形・庄内	鵜渡川原	酒田市亀ヶ崎地区で江戸期から栽培されてきたというシベリア系(青葉高氏)きゅうり。その形から、「小さくてかわいい」という方言の「めっちえこ」とも。
6	福島・いわき	根室	主産地は田人町根室地区。1940年代なかばに根室に嫁いで来た女性が、川部の農家から種を譲り受け、地這いの栽培法を受けついでのが始まり。
7	福島・いわき	小白井	主産地は川前町小白井地区。この地で明治時代から親しまれてきたが、現在は自家消費が中心。華南型の半白群、来歴や品種は不明。
8	福島・いわき	昔	主産地は三和町上三坂。明治時代から代々自家採種により栽培。来歴や品種は明らかではないが、果形は華南型品種に似ている。
9	福島・会津	余蒔	1940年代半ばに途絶えてしまい、60年後に復活した在来種。「余蒔」の名は、6月以降に直蒔きし、降霜まで収穫することから。
10	長野	八町	1945年頃に須坂市上八町の関野正二郎氏が育成したもの。1955年頃は長野市内の料亭で「もろみきゅうり」として供され、最盛期だった
11	石川	加賀太	1936年に金沢市久安町の米林利雄氏が、仲買人から煮食用の東北の短太系きゅうりの種子を譲り受けて栽培したのが始まり。
12	静岡	井川地這	井川は南アルプスに続く静岡県最北の地。ここに残されている、多様な在来作物の一つだが、来歴・品種などは不明。
13	奈良	黒滝白	主産地は黒滝村。栽培の始まりは江戸時代とされ、現在まで種子を受け継ぎ生産されている。果皮全体が白いことから「黒滝白」と呼ばれる。
14	大阪	毛馬	起源は江戸時代だが、長い間忘れられた存在だった。1990年代に復活、「なにわの伝統野菜」に認定されて、栽培農家が増えているという。
15	徳島	美馬太	来歴は不明。美馬地域で昔から自家採取・栽培が細々と引き継がれてきた。2010年からは地元の小学校で継続して栽培されている。
16	高知	山内伝来	植物学者牧野富太郎博士が故郷の高知で収集を指示した「牧野野菜」のひとつ。これは、土佐の大名、山内家に伝わったとされるタネ。詳細は不明。
17	高知	大豊在来	植物学者牧野富太郎博士が故郷の高知で収集を指示した「牧野野菜」のひとつ。「大豊」は地名。栽培地と思われる。詳細は不明。
18	高知	佐川在来	植物学者牧野富太郎博士が故郷の高知で収集を指示した「牧野野菜」のひとつ。「佐川」は地名。栽培地と思われる。詳細は不明。
19	高知	大正在来	植物学者牧野富太郎博士が故郷の高知で収集を指示した「牧野野菜」のひとつ。「大正」は、現・四万十市の地名。栽培地と思われる。詳細は不明。
20	高知	土佐在来	植物学者牧野富太郎博士が故郷の高知で収集を指示した「牧野野菜」のひとつ。詳細は不明。
21	鹿児島・奄美大島	島きゅうり	奄美大島では古くから在来キュウリが栽培されており、「島うり」とも呼ばれる。タネの部分をとって煮つけにすることが多い。
A		四葉	1944年に韓国から導入された華北系の品種。四葉(すうよう)の名は本葉が四枚付いた頃から実がなり始めることから。
B		F1	一代交配雑種。ブルームレス。現在、最も一般的に流通している。
番外	稲山先生栽培	芯止	
番外	稲山先生栽培	満州	昔の地這きゅうり。露地で栽培する。
番外	稲山先生栽培	オオヤ地這	
番外	稲山先生栽培	モーウィ	沖縄県で栽培されているきゅうりの一種。「モー」は毛、「ウィ」は瓜を指し、「赤毛瓜」とも呼ばれる。皮とタネの部分をとって和えものや炒めものに。
番外	群馬	高山	吾妻郡高山村で、何世代にもわたって、農家で受け継がれてきたきゅうり。